

概要と特徴



- ・ERとICU、全年齢・全疾患（小児系・外科系・産婦人科系も含む）を診療することができるGeneralistを育てます。
- ・専任スタッフとして、日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本循環器学会、日本脳神経外科学会、日本整形外科学会、日本麻酔科学会の専門医が加わっています。これら関連診療科の研修や専門医資格取得も可能です。
- ・臨床だけでなく、標準化コースなどの教育、学会発表や臨床研究・基礎研究を行い、オールマイティーな医師を育てます。国内留学や海外留学もできます。
- ・ドクターヘリやドクターカーなどの病院前医療、DMATを含む災害医療、高気圧酸素治療や熱傷診療などの特殊診療も研修できます。
- ・茨城県内の救命救急センターや国立成育医療研究センターに代表される国内トップの医療機関と連携して研修を積むこともできます。
- ・当科での研修では救急科専門医および集中治療専門医資格の取得を主なゴールのひとつとしています。2017年からの新専門医制度によって各科専門医制度が改定されており、現在は新制度と旧制度が混在する移行期であり、各人の背景（これまでの研修内容）によって専門医取得までの年数や満たすべき基準も様々で複雑です。したがって、当プログラムでは、研修年数や研修内容を一律に定めることはせず、各人の経歴や経験と希望に応じて個別に対応させていただきます。
- ・ERは原則1年、ICUは原則3か月を必須とします。
- ・小児はER/ICU含め1年、産婦人科は3か月を推奨します。
- ・救急や集中治療の専門医までは希望していなくても、内科専門医や脳外科専門医を目指しながら、救急・集中治療のいろはを学びたい！学んでから各専門医になりたい！という方も大歓迎です。また各専門医取得後に、救急や集中治療を学びたいという方も大歓迎です！

将来開業を目指す方も、開業のためには全年齢・全疾患の対応ができる急性期治療の知識は必ず役に立つでしょう。多分野の症例サマリーが必要な内科専門医も取得し易いので開業前の急性期治療の短期間研修も歓迎します。

経験できる疾患

主に、ショック、敗血症、外傷、急性薬物中毒、熱傷などの疾患を診療します。また、一次救急から三次救急までの内科的疾患や外科的疾患など、様々な科に関連した疾患の初期治療を経験することができます。

経験できる手技・検査

心肺蘇生術（気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、除細動など）、人工呼吸管理、創傷処置（切開・排膿、皮膚縫合）、注射法（末梢静脈確保、中心静脈確保など）、穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）、心臓・血管・腹部超音波検査、ドレーン・チューブ類の管理、胃洗浄、高気圧酸素治療、心臓カテーテル検査など。

経験できる手術（術者）

気管切開術、脳圧モニター設置など。また、研修診療科によっては、担当科の手術経験が可能です。



DMAT広域搬送訓練



DMAT活動（訓練）



ドクターヘリ搬送患者の受け入れ（けやき棟屋上ヘリポート）